

修理完成記念特別公開 重要文化財「芦引絵」五巻 全巻展示

阪急文化財団が運営する逸翁美術館は、現在の阪急阪神東宝グループの創業者である小林一三^{こばやし いちぞう}（1873～1957）の雅号「逸翁」を冠し 1957 年に開館（2009 年に現在地に移転）、逸翁が収集した 5,500 件の美術工芸品や約 22,000 枚の役者絵等の歌舞伎関連資料などをもとに、年数回の企画展を開催しています。

逸翁美術館が所蔵する重要文化財 16 件のうちのひとつ「芦引絵」^{あしびきえ}は、室町時代に流行した稚児物語を絵画化した作品です。物語は、比叡山延暦寺の僧が、東大寺の聡明な少年を見初めるところより始まり、その後の二人の別離と邂逅とを描きます。

室町時代末期に比叡山で五巻の「芦引絵」が作られ、それを模写させたという記録がありますが、いずれも現存しません。この絵巻はそれらを写して現在に伝える、唯一の貴重な作品となります。

この度、令和 2（2020）年度から令和 6（2024）年度にかけ、文化庁の重要文化財（建造物・美術工芸品）修理、防災、公開活用事業費国庫補助を活用し、池田市からも補助を受けて実施した、重要文化財修理事業が完遂いたしました。事業の成果を皆様にご覧いただきたく、全巻を一堂に展示する特別公開の機会を設けますので、足をお運びいただければ幸いです。

記

【開催期間】 2025 年 12 月 17 日（水）～12 月 21 日（日）

【開館時間】 10 時 00 分～17 時 00 分（入館は 16 時 30 分まで）

【会 場】 逸翁美術館 大阪府池田市栄本町 12-27（阪急宝塚線 池田駅下車 徒歩 10 分）

【観 覧 料】 無料

